

新しい風 豊かな未来 朝倉の農業



母の日の出荷を待つアジサイ

平成22年3月

福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター

はじめに

農業を取り巻く情勢は、一段と厳しさを増しており、農業経営はまさに危機的な状況となっています。

そのため、地域農業の担い手の育成・確保はもとより、水田農業の構造改革や園芸農業の推進、選ばれる商品づくり支援など、農家経営の安定に向けた取り組みを強力に押し進めることが急務となっています。

また、消費者の「食の安全・安心」に対する意識は極めて高まっており、農薬の適正使用の徹底や減農薬・減化学肥料栽培の推進などの取り組みが強く求められています。

これらを踏まえて、当普及指導センターは、農家が希望を持って意欲的に農業に取り組めるよう、以下の5項目を活動の柱として、関係機関等と連携しながら課題の解決に取り組んでいます。

- (1)意欲ある農業者の育成
- (2)競争力ある園芸産地の育成
- (3)水田農業の構造改革
- (4)安全・安心な農産物づくり及び環境にやさしい農業の育成
- (5)都市と農村が共生する地域づくり

この冊子は、当普及指導センターの取り組みを、農家や関係機関等の方々に広く理解して頂くため、平成21年度の主な活動成果について取りまとめたものであり、地域農業の振興と農家の方々の経営改善の一助になれば幸いに存じます。

平成22年3月

朝倉農林事務所朝倉普及指導センター長 若菜幹彦

目 次

1. 普及活動の主な成果

- (1) 消費者に安心な農産物を届けよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 上秋月ほ場整備後の営農確立にむけて！・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (3) 経営力の高い担い手を目指して！・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (4) 経営力の高い米麦担い手組織を目指して！・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (5) キュウリの売上向上！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (6) 安全・安心な農産物づくりを目指して！・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (7) 冬春ナスの売り上げ向上！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (8) 特産花きで中山間地域の活性化を目指す！・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (9) 「とよみつひめ」のナンバーワン産地を目指して！・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (10) 飼料イネで自給飼料生産を大きく後押し！・・・・・・・・・・・・・・ 13

2. トピックス

- (1) とれたて できたて あさくらの郷土料理コンテスト開催・・・・・・・・・・・・ 14
- (2) 雇用型農業経営者の能力向上に向けて・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (3) 暑さに強い水稻新品種「元気つくし」の取り組み・・・・・・・・・・・・ 15
- (4) 花の生産と販売、本格交流が始まる！・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (5) 完熟梨“食べごろゆたかくん”の生産拡大に向けて・・・・・・・・・・・・ 16

3. 参考資料

- (1) 各種表彰の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (2) 現地活動情報等一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (3) 普及指導センターの活動体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

(1)消費者に安全・安心な農産物を届けよう！

～安全・安心農産物の生産拡大の取り組み～

【対象の概況】

J A筑前あさくら生産部会等（15組織）
農産物直売所連絡協議会（管内直売所20組織）

【課題化の背景】

安全・安心な農産物づくりに向け、農薬の適正使用の徹底や減農薬・減化学肥料栽培（以下「減・減栽培」）などの推進が急務となっています。そこで、生産部会については減・減栽培の拡大及びGAPの導入、直売所については生産履歴の記帳・回収などに取り組みました。

【活動内容】

1 安全・安心農産物の生産

- GAP導入に向けた啓発研修会を実施
- 安全・安心農産物づくり研修会を実施

2 減農薬・減化学肥料栽培等の拡大

- 減・減栽培等農家の防除計画や施肥体系づくりに向け、講習会・座談会等を実施
- 品目ごとに、現地検討会や成績検討会を実施

- 県減・減栽培認証農家に対し研修会を開催

○品目ごとの取り組み

- ・水稲：減・減米栽培計画検討会を実施
- ・野菜：天敵など減農薬代替技術実証ほの設置・調査・検証（キュウリ、アスパラ）
- ・果樹：減・減栽培実証ほの設置・調査・検証（カキ、ブドウ）



〈安全・安心農産物生産研修会〉

【成果】

1 安全・安心農産物の生産

- GAPは、新たに、水稲やブドウ部会、モモ部会、きゅうり部会で取り込まれました。昨年オープンした「みなみの里」で生産履歴の記帳・回収が行われました。

2 減農薬・減化学肥料栽培等の拡大

- 減・減栽培等面積は、昨年と比べ94ha増加し、668haとなりました。
- 減・減栽培認証農家数は、昨年と比べ74戸増加し、139戸となりました。

【これからの取り組み】

GAPについては、今後、麦や大豆、スモモ、イチジクについて導入を進めていくとともに、すでに取り組んでいる部会についても一層の意識向上を目指します。

直売所における生産履歴の記帳・回収は、全直売所での実施に向け、研修会等を実施します。また、減・減栽培等については技術支援を行いながら拡大を目指します。

(2) 上秋月ほ場整備後の営農確立に向けて！

～新規品目導入による高収益型農業への取り組み～

【対象の概況】

朝倉市上秋月地区（上秋月土地改良区 ほ場整備事業受益面積77ha、160戸）

【課題化の背景】

平成20年度から、中山間地域である朝倉市上秋月地区において、ほ場整備事業が進められている中、整備後の営農確立が喫緊の課題となっています。そこで、土地改良区等と連携し、新規品目の導入や安定生産技術の確立に取り組みました。

【活動内容】

1 高収益型農業への取り組み

- 意向調査に基づく作目選定やほ場の団地化、作業の効率化に向け、座談会や研修会を実施
(ほ場整備後の土質等に適した機械化技術体系を提案など)

2 新規品目導入・栽培支援

(1) 大豆

- 排水対策としての耕うん・畝立て同時播種技術実証ほを設置・調査・検証
- 定期的に巡回し、栽培管理状況の把握及び病虫害防除を徹底指導

(2) 加工用ニンジン

- 大規模区画に対応できる機械化一貫体系実証ほを設置・調査・検証
- 定期的に巡回し、栽培管理状況の把握及び病虫害防除を徹底指導

(3) 麦

- 土地利用率向上のための麦類採種ほを設置・調査・検証
- 定期的に巡回し、栽培管理状況の把握及び病虫害防除を徹底指導



〈大豆実証ほ〉

【成果】

1 高収益型農業への取り組み

- 機械化一貫体系を取り入れ、ほ場の団地化や作業の効率化を図ったことにより、新たに、大豆2.7ha、加工用ニンジン1.2ha、麦1.3haが作付けされました。

2 新規品目導入・栽培支援

- 大豆の排水対策実証ほにおいて、収量が慣行と比べ108%と増加しました。
- 加工用ニンジンには、播種、防除及び収穫作業の機械化により、省力的な栽培技術が確立できました。

【これからの取り組み】

大豆・麦は、安定多収に向けた技術改善策を提案します。(排水、肥培管理、防除体系) また、加工用ニンジンには、安定栽培技術の確立・普及及びニンジン以外の品目も検討します。

(3) 経営力の高い担い手を目指して！

～経営管理能力の向上に向けた取り組み～

【対象の概況】

経営改善支援が必要な農業者及び経営改善意欲の高い認定農業者 90名

【課題化の背景】

農業経営が厳しい状況の中、認定農業者の経営力強化は喫緊の課題となっています。そこで、経営管理能力の向上に向け、経営実態にあった経営改善支援に取り組みました。

【活動内容】

1 経営管理能力の向上

- 制度資金借入農家については、借入から3年間、農業経営改善計画の目標達成状況を踏まえて、カウンセリングを実施
- 経営不振農家については、適期作業等が計画的に行えるよう、現地実践指導や個別相談会を実施

2 地域農業の核となる農業者の育成

- 認定農業者については、さらに経営が安定するよう、下記の農業経営者セミナーを開催
 - ・複式簿記講習会を実施(初級講座)
 - ・朝倉市、筑前町で複式簿記記帳講座を実施(月2回)
 - ・税理士等による経営研修会を実施
 - ・パソコンソフトを活用した経営分析・診断を実施
- 経営体育成モデル支援事業の対象農家に対し、カウンセリング・コンサルを実施後、農家とともに課題解決に向け実践指導



〈経営セミナー受講の様子〉

【成果】

1 経営管理能力の向上

- 制度資金借入農家の経営改善計画目標が達成され、経営が安定してきました。
- 経営不振農家の農業所得が増加し、経済余剰が確保されるようになりました。

2 地域農業の核となる農業者の育成

- 農業経営者セミナーの実施により、財産状況など経営の内容が正確に把握できたことから、認定農業者の経営改善が一層進みました。

【これからの取り組み】

今後も、認定農業者等の経営力強化に向け、個別支援の充実及び経営改善計画の目標達成に向けた支援に取り組みます。

(4) 経営力の高い米麦担い手組織を目指して！

～集落型水田農業法人の経営力向上に向けた取り組み～

【対象の概況】

朝倉市の7集落型水田農業法人（計 経営面積124ha、組合員数168戸）

【課題化の背景】

水田農業が盛んな朝倉市では、永続的・安定的な水田農業の担い手育成に向け、法人組織の運営改善や経営基盤強化が急務となっています。そこで、法人組織の経営管理能力の向上や新規園芸品目の導入などに取り組みました。

【活動内容】

1 経営管理能力の向上に向けた支援

- 組織役員を対象に、経理指導会や先進地調査を実施
- 法人の経営実態調査を踏まえ、経営改善計画書の作成を支援



<役員研修の様子>

2 経営改善に向けた技術支援

- 法人ごとに、土地利用及び機械導入計画を助言・指導
- 栽培講習会や現地指導会を通じ、土壌分析・診断を踏まえた適正施肥を徹底指導
- 水稻疎植など低コスト技術や、高温耐性新品種の実証ほの設置・調査・検証
- 新規園芸作物等の導入・拡大に向け、座談会等を開催



<水稻疎植の実証試験>

【成果】

1 経営管理能力の向上に向けた支援

- 組織役員は、財務諸表の見方を習得するとともに、作業者に的確な指示ができるなど、経営者としての意識が着実に高まりました。
- 法人の課題が明らかになり、経営改善の方向・方法が決定されました。

2 経営改善に向けた技術支援

- 作物・品種別の団地化や高性能農業機械の導入が図られました。
- 水稻疎植により、育苗コストが慣行と比べ35%削減されるとともに、「元気つくし」も栽培が安定しました。
- 土壌分析・診断に基づく適正施肥により、麦の収量・品質が向上しました。
- 加工用ニンジンやタカナ、飼料イネなど、新規品目の導入が進みました。
- これらのことから、平成19年度に赤字経営であった法人も、21年度には黒字経営となりました。



<加工用ニンジン収穫の様子>

【これからの取り組み】

今後、戸別所得補償制度など新たな施策にも的確に対応しながら、法人組織の経営力がさらに向上するよう支援します。

(5)キュウリの売上げ向上！ ～新品種導入と病害虫防除の取り組み～

【対象の概況】

J A筑前あさくら夜須冬春きゅうり部会（作付面積3.6ha、部会員数13戸）

【課題化の背景】

平成15～16年度の単価暴落及び生産資材の高騰により経営が逼迫する中、新品種の栽培技術の確立及び新たな病害虫による収量減の対策が急務となっていました。

そこで、肥培管理技術の向上や病害虫の徹底防除などに取り組みました。

【活動内容】

1 経営・技術支援

- J Aと連携し個別経営相談会を実施。技術・経営面の課題を生産者と共有し、解決方を個別指導
- 新品種の栽培技術確立
J Aや種苗メーカーと連携し、品種特性や栽培管理などの基本技術研修会を毎月実施

<経営相談会の様子>

- 土壌分析・診断を通じた適正施肥指導

2 病害虫防除対策

- 定期的に巡回し、病害虫の発生状況把握及び適期防除や罹病葉の徹底除去などを指導
- 紫外線カットフィルム及び防虫ネットの導入推進に向け、その効果確認及び現地検討会を実施
- ネコブセンチュウ被害回避のため、被害を数値で評価し、それに基づく土壌消毒を徹底指導



<土壌消毒と根の症状>

【成果】

1 経営・技術支援

- 販売金額1千万円以上の農家数は、H17年の4戸から13戸と大幅に増加しました。

2 病害虫防除対策

- 全農家が、紫外線カットフィルム及び防虫ネットを導入しました。
- 定植前の土壌消毒実施により栽培期間が延び、部会平均収量は、H17年の47kg/坪と比べ、H20年度は60kg/坪と大幅に増加しました。

【これからの取り組み】

H21年9月にJ A筑前あさくら冬春きゅうりの夜須部会と朝倉部会が合併し、共同選果が始まりました。今後は、お互いの技術向上及び生産量の向上に向けた取り組みを加速させます。

(6)安全・安心な農産物づくりを目指して！ ～捕食性天敵「スワルスキーカブリダニ」利用に向けた取り組み～

【対象の概況】

JA筑前あさくらきゅうり部会（夏秋7戸1.5ha、冬春25戸6ha）、アスパラガス部会（15戸2.3ha）



「スワルスキーカブリダニ」

【課題化の背景】

施設キュウリやアスパラガスは、「コナジラミ類」や「アザミウマ類」の薬剤防除が難しく、大変苦勞しています。そこで化学農薬に頼らない防除を行おうと、環境にやさしい捕食性天敵(H20年11月登録)を利用した防除試験に取り組みました。

【活動内容】

1 施設キュウリの現地実証ほの設置・調査及び天敵の普及拡大

○夏秋及び冬春キュウリの防除効果検証のため、天敵放飼後の害虫発生状況を調査するとともに、適期防除を徹底指導

○きゅうり部会の現地検討会等を通じて、天敵を利用した

防除技術を普及拡大

2 アスパラガス現地実証ほの設置・調査及び天敵の普及拡大

○天敵利用研修会及び現地実践指導を毎月実施

○天敵放飼後の害虫発生状況調査及び適期防除を徹底指導



〈天敵放飼と実践講習会〉

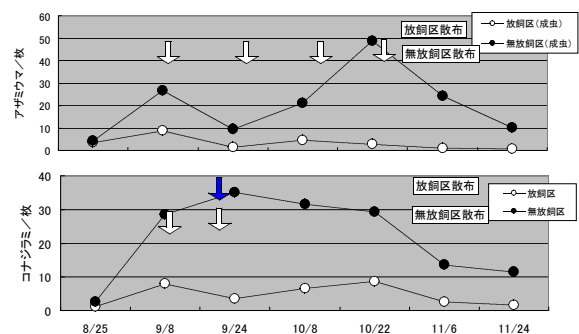
【成果】

1 施設キュウリ

○夏秋キュウリは、害虫増加を着実に抑制できました。(冬春キュウリは、放飼時期の遅れで効果が十分ではなかった)

2 アスパラガス

○ほ場により、効果に若干ばらつきが見られたものの、害虫増加を着実に抑制できました。



〈夏秋キュウリの害虫発生状況〉

【これからの取り組み】

天敵は生物農薬です。化学農薬とは違うことを十分認識して利用しないとうまくいきません。今後は、現地指導や研修会等を通じ、これら天敵を利用した「省力化」と「安全・安心」な農産物づくりを支援します。

(7) 冬春ナスの売り上げ向上！

～経営改善と病害虫防除の取り組み～

【対象の概況】

J A筑前あさくら冬春ナス部会（作付面積2.9ha、部会員数14戸）

【課題化の背景】

近年、高齢化等による部会員の減少及び価格の低迷等により経営が逼迫する中、収量増加及び所得安定が急務となっていました。そこで、施肥改善や病害虫の徹底防除に取り組みました。

【活動内容】

1 経営・技術支援

- J Aと連携し、個別経営相談会を実施。個人毎に技術・経営面の課題を検討し、解決策を個別指導
- 定期的な土壌・栄養分析診断に基づく適正施肥指導
- 栽培管理徹底のため、現地研修会を毎月実施

2 病害虫防除対策

- 定期的に巡回し、病害虫の発生状況把握及び適期防除を徹底指導
- 新技術(生物農薬、防虫ネット)の現地実証ほを設置・調査・検証
- エコファーマーの再認定に向け、栽培実態調査及び栽培計画策定等を支援



＜経営相談会＞



＜研修会の様子＞

【成果】

1 経営・技術支援

- 販売金額400万円/10a以上の農家数は、H18年の3戸から7戸と大幅に増加しました。
- 部会の平均収量は、H18年の40.4kg/坪から44.8kg/坪と増加しました。
- 土壌・栄養分析診断に基づく施肥により、施肥量が約2割削減されました。

2 病害虫防除対策

- 部会員全員が、エコファーマーに再認定されました。

【これからの取り組み】

新しい選果機導入を契機に、本年8月、朝倉と夜須の二つの部会が「J A筑前あさくら冬春ナス部会」として合併し、共同選果となりました。今後、組織活動の充実強化に向け、経営・技術力向上に向けた支援を行います。

また、生産者間の品質や収量の差をなくし、今後一層信頼される産地を目指します。

(8) 特産花きで中山間地域の活性化を目指す！ ～ホオズキの安定生産に向けた取り組み～

【対象の概況】

ホオズキ生産者（栽培面積 95a、13戸）

【課題化の背景】

ホオズキが中山間地域に適した品目として注目される中、当普及指導センター管内では、品質向上や安定生産が急務となっていました。そこで、着色不良対策や土壌病害の徹底防除などに取り組みました。

【活動内容】

1 品質向上

- 着果率向上に向け、適正施肥を個別指導
- 講習会や現地検討会などを通じ、植物ホルモン剤(エスレル)の散布時期や濃度を検討・実証

2 病虫害対策

- 現地ほ場で、簡単・安全に使える土壌消毒資材

＜収穫直前のホオズキ＞

「ピクリン錠剤」の使用方法を実践検討

- 定期的に巡回し、病虫害の発生状況把握及び適期防除を徹底指導

3 新規生産者の技術支援

- 品種特性や栽培管理など、基本技術研修会を実施
- 現地講習会を通じ、地下茎の堀上げ方法や植え付け方法を指導

＜生産者に地下茎の選び方を説明＞



【成果】

1 品質向上

- 販売単価は、品質向上により、前年と比べ、1.3倍に上昇しました。

2 病虫害対策

- 「ピクリン錠剤」使用により、白絹病の発生を着実に抑制できました。

3 新規生産者の技術支援

- 新規生産者の技術力や生産拡大意欲が着実に向上しました。

※来年度のホオズキの生産者は、8名増加予定

【これからの取り組み】

今後も、新規ホオズキ生産者の定着及び既存生産者の安定生産に向け、技術・経営支援を行います。

(9)「とよみつひめ」のナンバーワン産地を目指して！ ～新規栽培者の確保や安定生産に向けた取り組み～

【対象の概況】

JA筑前あさくらとよみつひめ部会（栽培面積 6ha、部会員 70名）

【課題化の背景】

「とよみつひめ」は、これまでのイチジクには無い強い甘みと優れた食感を有することから、生産者や関係機関から大きく期待されています。

しかし、新規導入品目であることから、栽培技術や経営力の向上が急務となっています。そこで、肥培管理技術の向上や更なる経営改善に向けた取り組みを進めました。

【活動内容】

1 産地拡大

- JA広報誌等による新規栽培者の募集や個別相談会の支援
- 新規栽培者に対し、品種特性や収益性、栽培管理等の講習会を実施

2 安定生産

- 講習会等を通じ、中古パイプハウスの活用を推進
- 適期栽培管理徹底のため、個別巡回指導や現地検討会を実施
- 各地区毎に、栽培講習会等を実施

3 経営改善

- 個別経営規模拡大のため、共同選果・共同販売体制確立を支援
＜安定生産が可能な雨よけハウス＞
- 個別にカウンセリングや経営分析・診断を実施



【成果】

1 産地拡大

- 栽培面積は、前年と比べ、5haから6haと増加しました。

2 安定生産

- 雨よけハウス栽培は、前年と比べ、ha1.5haから2haと増加しました。

3 経営改善

- 20a/戸以上の栽培農家は、前年と比べ、5戸から8戸と増加しました。

【これからの取り組み】

今後は、個別経営規模の拡大と栽培技術の向上に努めるとともに、規格外品の加工品開発を進めるなどにより、産地の競争力を一層高めます。

(10) 飼料イネで自給飼料生産を大きく後押し！

～ 耕畜連携による稲発酵粗飼料供給・利用の仕組みづくり～

【対象の概況】

朝倉・蜷城・馬田・三奈木地区の耕種農家394名
ふくおか県酪協組合員29名

【課題化の背景】

厳しい酪農経営の安定化を図るためには、一層の生産コスト低減が求められており、自給飼料の増産が急務となっています。しかし、自作地面積や労力の面から考えると畜産農家だけでは限界があり、地域での取り組みが必要です。そこで、耕種農家と畜産農家の連携体制の整備や飼料イネの作付拡大に取り組みました。

【活動】

1 耕畜連携体制の整備

- 地域内農家の連携意識を醸成するため、集落座談会等を実施する中で飼料イネ生産組織の設立を働きかけ
- 設立された生産組織については、運営・栽培技術を指導



< 収穫作業の様子 >

2 稲発酵粗飼料(WCS)用稲の利用拡大

- 高収量が望める新専用品種の展示ほを設置・調査・検証
- 栽培講習会や定期的な栽培管理指導及びほ場巡回審査の実施
- 生産物の栄養成分分析診断に基づき、飼料給与や飼養管理を指導



< ほ場巡回審査の様子 >

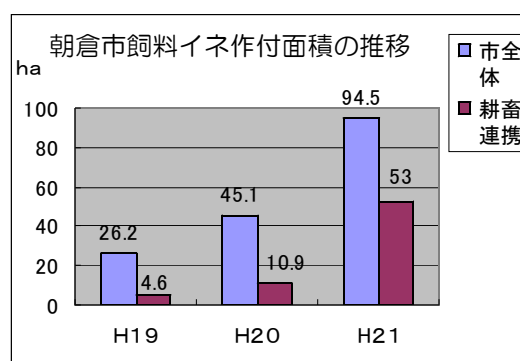
【成果】

1 耕畜連携体制の整備

- 地域内での耕畜連携に対する意識が醸成され、生産拡大意欲が着実に向上しました。
- 朝倉地区に加え、新たに2（蜷城・馬田）地区で耕畜連携体制が整備されました。

2 稲発酵粗飼料(WCS)用稲の利用拡大

- 耕畜連携による栽培面積は、H19と比べ48ha増加し、53haとなりました。
- 利用農家数は、H19と比べ9戸増加し、25戸となりました。



【これからの取り組み】

生産振興作物として、飼料イネの生産・利用の組織的取り組みが長期にわたり定着するよう、朝倉市水田農業推進協議会とともに支援します。

2. トピックス

とれたて できたて あさくらの郷土料理コンテスト開催

朝倉地域担い手・産地育成総合支援協議会は、筑前町のファーマーズマーケット「みなみの里」において、あさくらの郷土料理コンテストを開催しました。このコンテストは、消費者や地域住民に豊かな地場農産物をもっと知ってもらおうとともに、食や農の大切さを理解してもらおうと、初めて開催したものです。

当日は、青ネギやカキ、イチジク、大豆などを使った 27 品が出品され、筑前町やJA等関係機関の長及び一般審査員 70 名で試食と審査を行った結果、「蓮根団子の筑前煮」が最優秀賞を獲得しました。このメニューは 11 月 20 日から 1 か月間の期間限定で、同直売所のレストランにて提供されました。

出品者からは「朝倉地域は農産物の種類が豊富。料理を通じて農業や地域の振興に役立てていただければ」などの声が聞かれました。

今後も、普及指導センターは、このような活動を通じて、地域農業活性化のための支援を関係機関一体となって進めます。



〈出品された料理〉

雇用型農業経営者の能力向上に向けて

雇用型農業の推進と経営管理能力の向上を目的に、雇用を行う農業経営者等を対象とした、労働管理や雇用保険、財務管理等についての研修会及び、県内の先進経営者による講演会を開催しました。

研修会では、社会保険労務士の半田講師から、労働安全配慮義務や労働基本法に加え、労災保険・雇用保険などについて詳しい説明がなされました。

また、税理士の花田講師からは、源泉徴収の事務処理や年末調整について、実際の記入例を基にわかりやすく説明がなされました。

講演会では、先進事例を学ぼうと、(有)ベジタブルセンターUFOの藤嶋宏明社長を講師に招き、雇用労力を活用した経営について、実践体験を交えわかりやすく話されました。

参加者からは、「講義の内容がよく理解でき、今後の経営に活かしていきたい」「労災保険について初めて聞く内容が多くとても参考になった」などの声が聞かれ、雇用を活用したこれからの農業経営を営む上で、有益なものとなったようです。

今後も、普及指導センターは、各種講座や研修会等を通じ、先進的経営体の育成に向け全力で支援します。



〈雇用管理研修会の様子〉

暑さに強い水稲新品種「元気つくし」の取り組み

「元気つくし」は、高温条件下でも高品質・極良食味の品種として、福岡県が開発し、平成21年3月に品種登録された新品種で、皆様に期待されています。

今年度は、県内で385ha、管内では約140ha栽培されました。

新品種であることから、地域に合った生産技術を早く確立しようと、栽培実証展示ほを4か所設置したところです。

また、独自に行った食味の比較試験では、外観が良く粘りがあり、コシヒカリや夢つくしに負けず良い評価が出ました。

今後も、普及指導センターは、福岡県の新たなブランド米の確立に向けて、栽培技術指導等に取り組んでいきます。



の様子 左・元気つくし・右・夢つくし



〈元気つくし栽培実証展示ほの様子〉

〈 苗

花の生産と販売、本格交流が始まる！

J A筑前あさくら鉢花部会「アジサイ研究会」は、花屋など販売関係者と「現地交流会」を開催しました。

これは、買参人や町の花屋さんを生産現場に招き、生産の実情を知ってもらうことで、生産と販売双方の理解を深めようと、初めて開催されたものです。

参加者からは「咲いている花の写真がほしい」、「飾り鉢を使用してはどうか」など、今後の参考になる意見が出されました。

今後も、普及指導センターは、販売促進に向けた産地の様々な取り組みを、生産者や関係機関と一体となって進めます。



〈生産者自らが説明〉



〈熱心に視察する参加者〉

完熟梨“食べごろゆたかくん”の生産拡大に向けて

梨生産者の経営安定と産地の活性化に向けて、「福岡の梨」プロジェクトチーム（構成員:生産者、JA、県）は、消費者が求めているアタリハズレのない完熟梨「食べごろゆたかくん」の商品化に取り組みました。

平成21年度の出荷量は、基本管理の更なる徹底などにより、前年度の220キロから約3トンと、大幅に増加しました。

そこで、今後更に生産拡大を図ろうと、完熟ナシの先進地である鳥取県から講師（田辺賢二、鳥取大学名誉教授）を招き、“完熟ナシ生産振興大会 in あさくら”を開催しました。

当日は、生産者や関係機関およそ100名が会場一杯に詰めかけ、美味しい梨づくりに向け、活発な意見交換が行われました。

今後も、普及指導センターは、農家の経営安定と産地の活性化に向け、関係機関と一体となって、消費者の期待に応えられる商品づくりを目指します。



〈活発な意見交換の様子〉



〈イメージキャラクター〉

3. 各種表彰の紹介

管内の各種表彰農家を紹介いたします

表彰名：農林水産賞農産部門優秀賞
(第17回福岡県農林水産まつり)
受賞者名：東峰中部集落営農組合(東峰村)



「福岡

県農林水産まつり」の表彰行事において、東峰村中部集落営農組合は長年の活動が認められ、農林水産賞農産部門で優秀賞を受賞されました。

当組合は平成17年に設立され、集落内の農作業の共同化のほか、農業体験交流活動に積極的に取り組むなど、地域活性化に向け中心的な役割を担っていることなどが高く評価されたものです。

表彰名：福岡県知事賞(集団の部)
(平成20年度福岡県大豆作経営改善共進会)
受賞者名：馬田地区作業受託組合(朝倉市)

「福岡県大豆作経営改善共進会」の表彰行事において、馬田地区作業受託組合は地域で模範となる大豆生産の取り組みが認められ、集団の部で県知事賞を受賞されました。

当組合は、ブロックローテーション方式の導入やオペレータの活用を通じ、作業の効率化や低コスト化に努めるとともに、共同種子消毒や色彩選別機の利用等による品質向上、ほ場巡回の徹底による適期栽培管理により単収向上を図るなど、朝倉地域の大豆生産振興に対して多大に貢献したことが高く評価されたものです。



表彰名：農林水産賞農産部門名誉賞
(第17回福岡県農林水産まつり)
受賞者名：日野調栄氏(朝倉市)
経営内容：カキ・ブドウ

「福岡県農林水産まつり」の表彰行事において、日野調栄氏は長年の活動が認められ、農林水産賞農産部門で優秀賞を受賞されました。

日野調栄氏は、柿の生産はもとより、平成13年度から、JA筑前あさくらの柿部会副部長や部会長を長年にわたり務めるなど、部会の発展に寄与されていること、また、指導農業士として農業後継者の指導に活躍されていることなどが高く評価されたものです。



表彰名：「福岡県農業指導功労者」受賞
受賞者名：西岡良一氏（朝倉市）
経営内容：シクラメン、アジサイ、その他鉢花



「福岡一るめ

県農業指導功労者表彰」の表彰行事において、西岡良氏は、平成元年から農業後継者の長期研修を受け入れなど、複数の新規就農者の定着に貢献されたことが認められ、農業指導功労者を受賞されました。

西岡氏は、約 20 年もの長きにわたり、農大実習生や農業高校生を受け入れられるなど、担い手の育成に尽力されたことが高く評価されたものです。

※「福岡県農業指導功労者表彰」：農業青年の確保育成に熱心に取り組み、県農業の持続的な発展に大きく貢献された農業者指導者の功績を讃え表彰するものです。

表彰名：全国米麦改良協会会長賞
(平成21年度全国麦作共励会)
受賞者名：斉田藤尚氏（筑前町）（水稻・麦・大豆・野菜）
経営内容：水稻988a・麦1366a・大豆258a・野菜40a

「全国麦作共励会」の表彰行事において、斉田藤尚氏は地域で模範となる麦生産の取り組みが認められ、全国米麦改良協会会長賞を受賞されました。

斉田藤尚氏は、ビール麦や小麦（採種麦含む）を約 14ha 作付けする大規模土地利用型農家で、土づくりや排水対策などの基本技術の徹底等により、安定した高品質・高収量を実現しています。また、JA 筑前あさくら採種部会の夜須支部長を務めるなど、地域のリーダーとしても活躍されていることなどが高く評価されました。



表彰名：福岡県農業協同組合中央会会長賞(土地利用型部門)
(平成21年度福岡県優良担い手表彰)
受賞者名：井上喜隆氏（筑前町）（水稻・麦・大豆・野菜）
経営内容：水稻850a・麦1470a・大豆450a・野菜110a)

「福岡県優良担い手大賞」の表彰行事において、井上喜隆氏は、地域で模範となる水田農業の取り組みが認められ、県農協中央会会長賞を受賞されました。

井上喜隆氏は、水稻＋麦＋大豆＋野菜の大規模土地利用型農家で、高い栽培技術力で安全・安心農産物づくりに努めるとともに、小学校の稲作体験などの食育活動にも取り組むなど、地域のリーダーとして、農業・農村の発展に貢献していることなどが高く評価されたものです。

